

運転することで事故を減らす車

盛岡市立高等学校 二年 箱石 慈成

私の将来の夢は、事故を最大限に防ぐ車を作ることです。

いま日本は、高齢化社会になっており、これからますます加速することが考えられる。ここで発生する問題は、高齢者による交通事故の増加だ、2016年の警視庁の発表によると65歳以上のドライバーが加害者となり交通事故を起こしている事故は、交通事故の22パーセントを占め、十年前より10パーセント増えている結果となった。こういったこともあり、高齢者が運転を控えるべきだという意見もよく耳にするが、私はこの意見に反対である。私が住んでいる岩手県は全国の県の中で一番広く、市の中心地から離れれば離れるほど公共交通機関が少なくなっていくからだ。そのため高齢者は移動手段に車を使わないと大変不便な状況にあるからだ。これらの事から、交通事故を減らすためには、車をより安全なものに改善する必要があると考える。私は、これらの事を考慮して、高齢者が運転しやすい車作りをしたいと考える。私が考える高齢者が運転しやすい車を作るということは、自動ブレーキを搭載し、完全自動運転をさせるといったことではない。あくまでも運転するのは人であり常にドライバーをサポートする車のことである。そうすることで運転技術を衰えさせず、運転自体を楽しめるのではないかと考えた。このような車を作るため、私は大学で車の基礎構造、車の性能について学び、そこから運転時の車の弱点や、交通事故の事故原因を学び、運転時ドライバーの運転を最大限にサポートするシステム車を作りたいと考えている。そのために、私は高校在学中に車の構造を少しずつ勉強し、多くのシステムの簡単な仕組みを学びたいと考えている。将来は高齢者だけでなく幅広い年齢層の人たちが運転を楽しめる車を作りたいと考えている。自動運転システムの発達により、移動手段としては便利で楽になるかもしれないがドライバーが運転することが楽しくなくなってしまうのは避けたいと考えている。当然であるが私はまだ免許を取得できないので自動車の運転をしたことがないが将来、免許を取得して運転するときに、目的地を入力するだけで自分は何もしないというのでは寂しいと感じてしまうのではないかと思う。運転するからには自分で操作して車を動かしてみたいと思っっている人は私だけでなく、たくさんいるのではないかと思う。これらの事から、私は、若者から高齢者すべての人が運転を楽しむことで、運転技術を向上させられ、なおかつサポートシステムを向上させることで交通事故も防止したいと思う。

私は将来、交通事故を減らすことが出来るサポートシステムを作ると同時に自動運転に頼り過ぎるのではなく、あくまでも運転手自身が自ら運転することが出来る楽しく魅力的な車を作ることが私の夢だ。